vol.025 JULY, 2020.[株式会社正文舎] 会社案内

# with SBS

※SBSは、正文舎（SyouBunSyaの略です）

《大好評連載》
**にほんごのまめ知識**
Focus on JAPANESE

《今回のテーマ》
**貸し切る・借り切る**

## YouTube

正文舎のアレやコレ。
今月のキーワードは「Y」

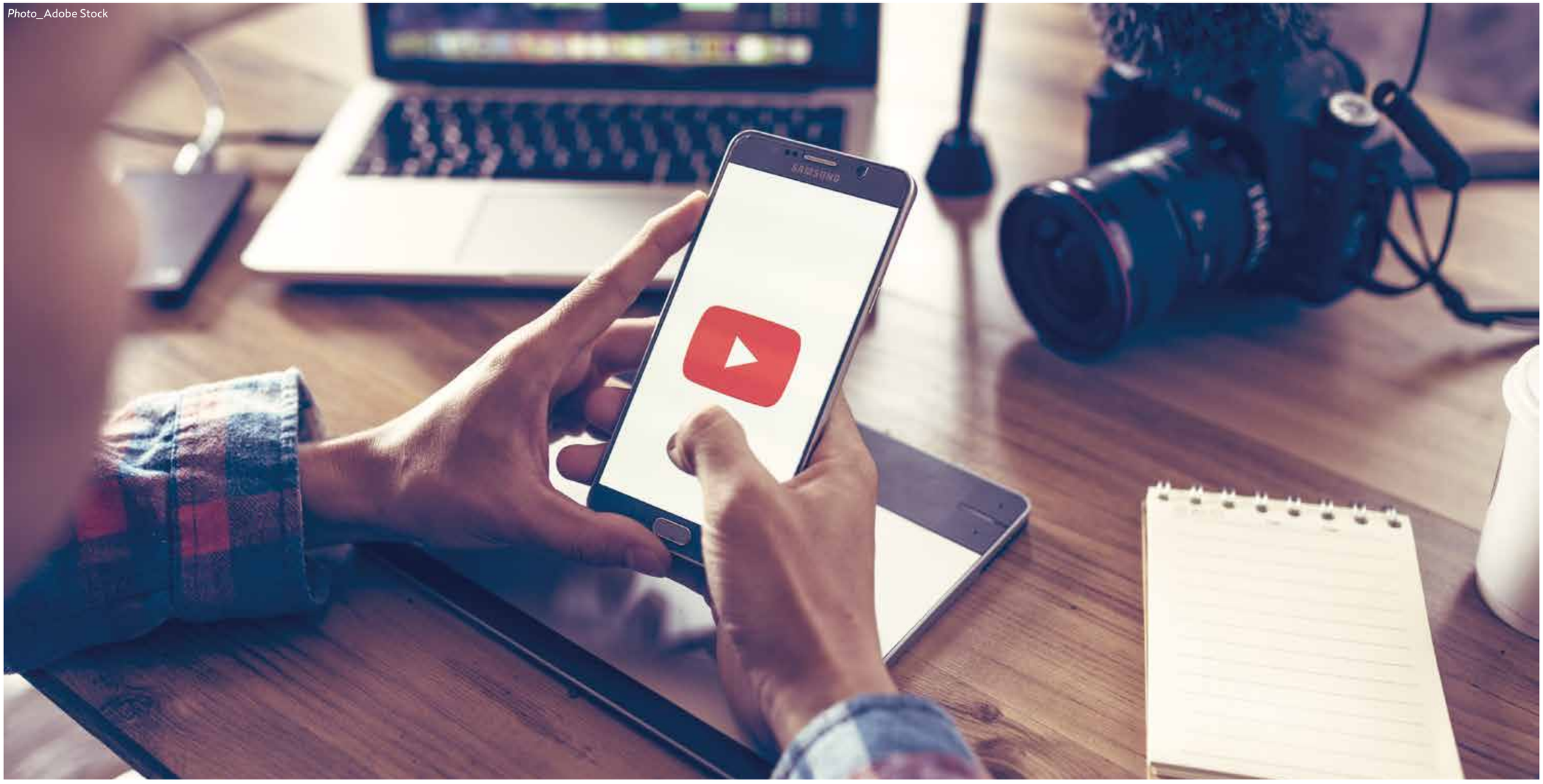
## 「株式会社 正文舎」A to Z

**YouTube** こんなときだからこそ、何かできることを。

**TOPICS** —— オリジナル製品の販売を開始します！

**New&Goods** —— 相手を思いやる心

株式会社 正文舎のすべての情報は、WEBサイトでご確認ください。
バックナンバーもこちらから。




Photo_Adobe Stock

「株式会社 正文舎」A to Z

# YouTube

Text_Narita Sadayuki

## こんなときだからこそ、何かできることを。

jutjú:b［名詞］　Google LLCが提供する世界最大の動画共有サービス。Youは「あなた」、Tubeは「ブラウン管（テレビ）」という意味。

「さっぽろ雪まつり」閉幕後に、札幌から感染が広がった新型コロナウイルスは、その後瞬く間に全道、そして全国へと広がったのは皆さんご承知のとおりです。北海道では2月28日、全国に先駆けて「緊急事態宣言」が出され、週末における外出自粛が要請され、私たちの生活様式は一変しました。

弊社では、3月10日に『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関わる弊社の取り組み』、そして4月21日『新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に関する当社の対策について（換気について）』という宣言を発表し、さまざまな感染拡大対策を講じてきました。そして社員一人ひとりの意識的行動により、ほぼ毎日感染者が出ている札幌市内の企業にありながら、これを書いている6月下旬時点で、一人の感染者もだしていないということは、幸いなことだと思います。

それでも、公立の小・中・高校が休校になり、ほぼすべての大学も登校禁止、そして卒業・入学式も中止ということになりました。弊社のクライアントは官公庁と学校関係が比較的多く、そのため仕事量に少なからず影響があったことは否めません。

正文舎公式YouTubeチャンネル「 こんなときだからこそ、何かできることを精一杯」
https://youtu.be/QrbxoiaeOxI

しかしながら、このまま手を拱いているワケにはいきません。そこで、社員の有志が「こんな時だから、何かできないかな?」とみんなで知恵を出し合いました。

**▶何か我々に出来ることは無いか考えた**
**▶パラパラ漫画だとお子さんも楽しめそう**
**▶パラパラ漫画を512枚描いた**

その結果、社長の承認を経てできあがったのが、パラパラ漫画『ぼくの未来』。次いで

**▶パラパラ漫画だからアニメ化してみた**
**▶それをデジタル印刷機で出力して折り紙にした**
**▶そしてその折り紙を寄付した**

と、制作のコンセプトから完成までの一連の流れを動画にしたのが『こんなときだからこそ、何かできることを精一杯』(https://youtu.be/QrbxoiaeOxI) です。

ということで、今回、制作に携わった主だったメンバーに話を訊いてみました。

―― 今回の動画ができあがった率直な感想は?

**岸　:** 社内外ともに評判が良く、当社のスキルの幅も宣伝できたので取り組んでくれたスタッフに敬意を表します。

**日向:** アニメーションの作成、動画撮影、動画編集に関わらせてもらいました。初めての作業が多く、大変でしたが思い描いたような動画が出来、やりがいもあり楽しかったです。

**水野:** 自分の描いたイラストをアニメーションとして見たのは初めてだったので、動いているところを見たときには、純粋に嬉しくて感動しました。

―― 一番苦労した作業は何ですか?

**日向:** 動画作成でPremiereを使用するのは初めてで、参考書とインターネットの検索で四苦八苦だった事です。

**水野:** パラパラ漫画なので、どのようにしたら不自然に見えないかと考えながら描かなければならなかったことが苦労しました。

―― 今後の展開の計画はありますか?

**岸　:** ○映像制作分野への進出　○社内の設備や取り組みなど会社案内的なものを映像化し紹介　○ドローン撮影に取り組みたい　○アニメーションにも挑戦したい

**日向:** 少しですが、せっかく作業できるようになった動画編集ですので、現在は弊社のWebサイトの動画を作成できるようスキルアップのための学習を続けています。いずれはお客様のWebサイト動画等、映像の仕事も出来ればと考えています。

**水野:** 漠然としていますが、今回のように、自分のイラストを社内外の方にも見ていただく機会をどんどん増やしていければ良いなと思いました。

これからも、新たな分野にチャレンジし続ける正文舎にご期待ください。



# TOPICS

あなただけのオリジナル・グッズを創ってみませんか?

この度弊社では、Tシャツなどの衣類に直接プリントできるガーメントプリンター「RICOH Ri 100」を導入しました。

そこで“世界にひとつだけ”となるオリジナル製品の制作・販売を開始します!

お子さん、お孫さん、ペット、描いた絵、思い出の場所や場面などの画像をプリントして、そのまま毎日の普段使いに!

以前のように人に会うのにも気を遣う今だからこそ、思い出をカタチにしませんか?　プレゼントにも最適です。

**■トートバッグ・Tシャツ**

お客さまの「1枚だけすぐ欲しい!」にお応えします。

トートバッグは、「エコバッグ」や「お弁当入れ」としていかがですか?

## オリジナル製品の販売を開始します!

*Text & Photo* _Tokunaga Moe

**■マスク**

外出時に欠かせなくなったマスク。

また、これからの季節にあわせて、一般的なタイプだけではなく、アイスマスクと呼ばれるポリウレタンマスク（接触冷感マスク）にも印刷可能です。 裏返してネットにいれて、洗濯機で洗っても大丈夫です。

**■コルクコースター**

飲食店のオリジナルグッズとしてオススメです。

もちろん、職場やご自宅でも、来客をもてなすときに目を引くグッズです。

**■タンブラー**

台紙を自由に入れ替えて、好みのスタイルにカスタマイズして使用できるので、イベントや展示会、成約記念、キャンペーン、プレゼントに最適です。

ほかにもサンプルを鋭意制作中です。

オリジナル製品についての特設サイトも近日公開予定ですので、興味のある方はぜひお問い合わせください。

22

## 正文舎 New&Goods

# 相手を思いやる心

*Text_ Shirafuji Saori*

新型コロナウイルスの感染対策で、テレワークと時差出勤を始めて2か月が過ぎました。

当初は社内にいなかったり、出社時間がバラバラだったりで、チームワークをどう育てていけばいいのか不安もありました。Webの場合は、スペックが高いパソコンとインターネットがあれば個人の仕事に支障はないものの、定例ミーティング、各人のスケジュールの把握の仕組みなど、制作以外の業務がスムーズにいくのかと心配していたのです。ですが、現段階では大きな問題も起こらず、お客様にご迷惑をかけることなく仕事が続けられています。その理由は何かと考えると、「思いやり」の心が育っているからだと思います。

具体的に何かというと、オンラインですが言葉を交わす回数が増えたり、状況説明を丁寧にしたりすることです。これで、大きな問題になりそうなことも、はやい段階で発見でき、軌道修正できると考えています。

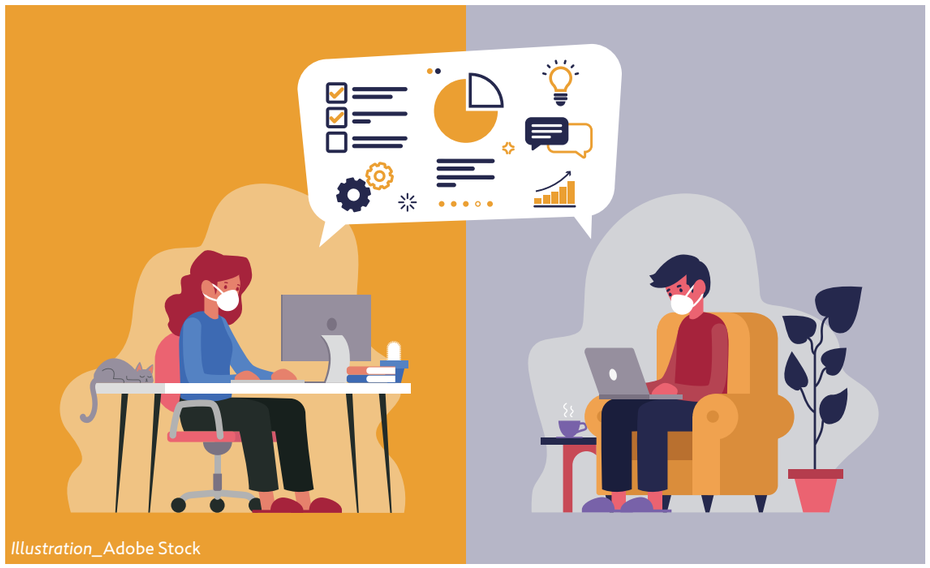
たとえば、テレワークのスタッフは、自分の状況を細かく報告してくれます。小さなことですが、きちんと伝えようという気持ちがあると、お互いの存在を感じられてよいです。

また、ちょっとした意識のずれがあるときは、すぐに連絡をとって打ち合わせするようになりました。以前のように全員が会社に当たり前にいるわけではないので、今連絡をとろうと思うようになるのでしょう。

さらに、メールも書き方が丁寧になったように思います。スタッフから来るメールを読んでいると、状況説明も増え、わかってもらえるようにという想いが伝わってきます。

同じ場所で働いているならば必要ない段取りも必要になり、もどかしさを感じることも確かにあります。そして、アフターコロナの時代は、これが当たり前の環境なのですね。情報や想いは伝わらないもの。だから工夫が必要。

まだまだできていない部分も多い私ですが、自分から実践して、いい環境を作っていきたいと思っています。



*Illustration_Adobe Stock*





まめ にほんごの知識 19

# 貸し切る・借り切る

*Text_ Kurita Miyuki*

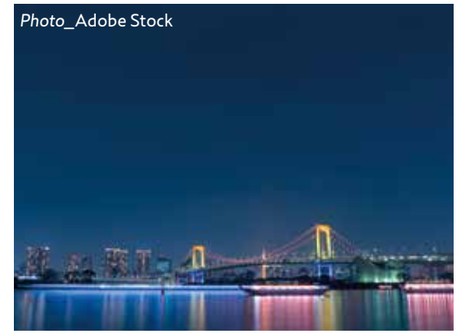
6月から、コロナ禍で休業していたお店が次々と営業を再開しています。集団感染が起こったことで敬遠されていた屋形船も同様です。遠い昔のことではありますが、私も一度だけ、隅田川の屋形船に乗ったことがあります。その日の写真を見ると、日付は3月28日、桜の咲く頃。本来なら書き入れ時だったはずのこの時期に、今年は本当に気の毒でした。誹謗中傷も受けたといいますが、めげずに頑張ってほしいですね。

屋形船には貸し切り※1と乗り合いがありますが、私が乗ったときは会社の宴会でしたから、貸し切りでした。ところで、この「貸し切り」という言葉、「貸切り※1バス」という使い方なら問題ないのですが、こんなふうに使ったことはありませんか。

**―レストランを貸し切ってパーティをしました。**

レストランのオーナーの言葉でしょうか。レストランを利用した側なら「借り切る」ですよね。これ、本当によく耳にするのです。

「借り切る」という言葉はあまり馴染みがないかもしれません。“乗り物や部屋などを、一定期間、特定の個人や団体に貸すこと”※2を「貸し切り」と呼び馴染んでいるので、借りる側が主語になった時の動詞にもなんとなく「貸す」のほうを使ってしまうということなのでしょうか。辞書によっては上記のような文を“俗に、借りる側が使うこともある”と載せているものもありますが、みんなが使えばすぐ認めちゃうのはちょっと…私にはまだ違和感が拭えません。



*Photo_Adobe Stock*

毎日新聞校閲センターが運営するウェブサイト「毎日ことば」※3では、“本来「貸し切る」は店の側からの言葉だし、「借り切る」は今ひとつ使い慣れない感じがする”ので折衷案として「貸し切りにする」という表現を挙げています。

**―レストランを貸し切りにしてパーティをしました。**

これなら、「貸し切り」という状態に「客がする」ということになり、主語と述語のちぐはぐさが解消されますね。

貸し切りでワイワイ…なんて今のご時世では難しいですが、レストラン貸し切りパーティも、屋形船での宴会も、何の不安もなく楽しめる日々が、早く戻ってきてほしいですね。

※1：送り仮名はどちらでも構いません。
※2：三省堂スーパー大辞林3.0より引用
※3：毎日ことばhttps://mainichi-kotoba.jp/enq-016

### 校正の現場から。

先日、医学関係の文章の中に、「応急措置」という言葉を見つけました。

「応急処置」の間違いではないかと思ったのですが、処置と措置は同義で使われることもあり、必ずしも間違いとはいえないのかもしれません。

参考までに、医学用語で「応急処置」といえば「…傷病発生現場ないし搬送途上で訓練を受けた救急隊員がおこなう処置」※であり、一般の人が行う場合は「応急手当」というのだそうです。

※日本救急医学会HP　https://www.jaam.jp/　より引用

## 《会社概要》

社　　名：株式会社 正文舎

代 表 者：代表取締役　岸　昌洋

創　　業：昭和 9年 5月 1日

設　　立：昭和27年 5月15日

資 本 金：1,400万円

所 在 地：［本　　社］
〒003-0802
北海道札幌市白石区菊水2条1丁目4番27号
TEL.011-811-7151
FAX.011-813-2581

［東京オフィス］
〒107-0051　東京都港区元赤坂1-1-7
オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016
FAX.03-5413-4017

### 取扱い品目

**印刷事業**

**【商業印刷物】**

［情　報　系］パンフレット・リーフレット・カタログ・チラシ、会社案内、ポスター、カレンダー、PR誌、取扱説明書（マニュアル）

［物流資材系］各種封筒、包装紙、シール・ラベル

**【出版印刷】**

［書　　籍］名鑑、各種名簿、記念誌、単行本

［雑　　誌］週刊誌、月刊誌、専門誌

［新　　聞］各種業界新聞、学校新聞

［学　参　系］教科書、辞典、問題集、生徒会誌

［自 費 出 版］同人誌、自分誌、詩集、エッセイ、写真集

**【業務用印刷】**

伝票・帳票各種、オンデマンド／バリアブル、小ロット印刷、賞状（学位記・証書等）印刷、可変宛名印字、ダイレクトメール

**情報メディア事業**（WEBサクセス）**https://www.websuccess.jp/**

各種WEBサイトの企画・制作・運営管理、各種データベースの企画・構築・運営管理、クロスメディア展開の企画・構築・運営管理

**賞状net事業**

賞状・表彰状等のインターネット通販サイトの運営

MUD Media Universal Design
メディア・ユニバーサル・デザイン協会認定の
メディア・ユニバーサルデザイン・アドバイザーの
資格を持った制作者が多く在籍しています。

グリーンプリンティングの認定を受けています。

CSR P-00023
全日本印刷工業組合連合会による
CSR認定制度の基準を達成しています。

IS 618840/ISO 27001
ISO/IEC 27001:2013 JIS Q 27001:2014
情報セキュリティマネジメントシステム
の認証取得をしています。

ぷらねっと
©2008 syoubunsya.inc

★ぷらねっとクンは、正文舎の業務や取組を紹介するときに
どこからともなく現れるオリジナルキャラクターです。


情報をクリエイト

株式会社 正文舎

札幌本社 〒003-0802 札幌市白石区菊水2条1丁目4-27
TEL.011-811-7151 ／ FAX.011-813-2581

東京OFFICE 〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-7 オリエント赤坂モートサイド805
TEL.03-5413-4016 ／ FAX.03-5413-4017

https://www.syoubunsya.co.jp



Publisher ■ Kishi Masahiro
Creative & Art Director ■ Narita Sadayuki
Chief Editor ■ Ebina Mikiko
A to Z Writer ■ Narita Sadayuki
Topics Writer & Editor ■ Tokunaga Moe
New & Goods Writer ■ Shirafuji Saori
Focus on JAPANESE Writer ■ Kurita Miyuki
Editor ■ Honma Kazumi
Digital Printing ■ Narita Sadayuki

CR_labo in SYOUBUNSYA

※本誌はデジタル印刷機 Ricoh Pro C9200において、在庫紙を使用し、オンデマンド印刷・インライン製本をしています。